



桜川市真壁町上谷貝

鹿島神社本殿

1月6日 足場がかかりました
8日 茅下ろしが始まりました
13日 木部修理が始まりました

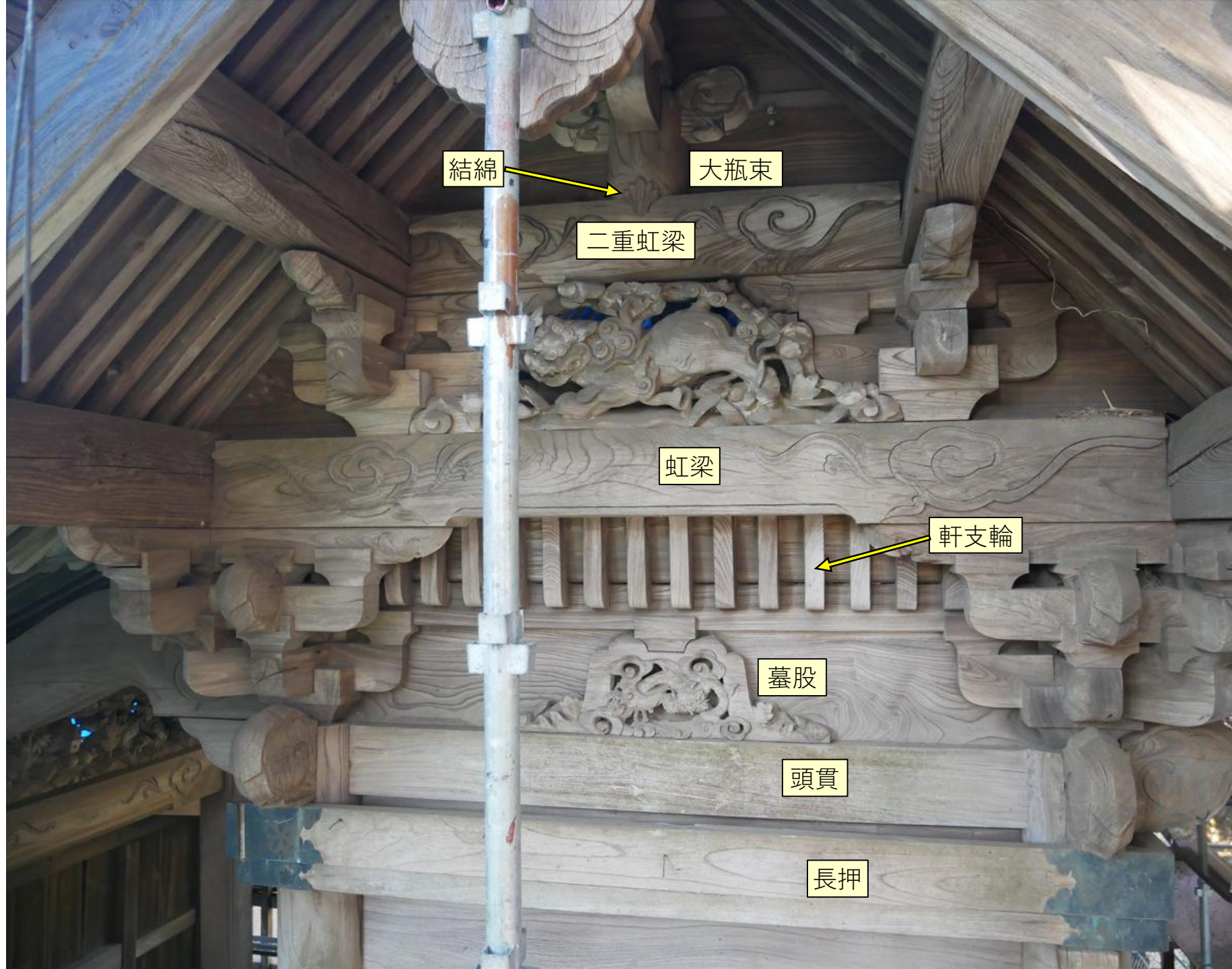
【第3回】 本殿をいろいろ彫刻

江戸時代の筑波山麓では社寺建築に豊富な彫刻が施されることが一つの特徴になっており、鹿島神社本殿にも多くの彫刻が見られます。

水平に渡される梁（はり）や貫（ぬき）の両端（木鼻きばな）には、雲や植物の文様だったり、獅子や獏、龍などの彫刻がはめられ、鹿島神社本殿では雲の文様と獅子彫刻が使われています。

身舎（もや＝建物の中心の直方体の部分）の両側を見ると、虹梁（こうりょう）が2本渡されていて、二重虹梁の上には大瓶束（たいへいづか）が立てられ、頭貫（かしらぬき）の上には墓股（かえるまた）が配された本格的な造りです。

各部の写真を載せますので、お楽しみください。



結綿

大瓶束

二重虹梁

虹梁

軒支輪

幕股

頭貫

長押



↑東妻二重虹梁上（獅子）

↓西妻二重虹梁上（狛犬）





↑東面墓股（龍）

↓西面墓股（虎）



向拝頭貫上の彫刻（七福神）

（正面／南側）



琵琶（弁財天） 笛（福祿寿） 鼓（恵比寿） 小槌（大黒天） 太鼓（寿老人） 鉦（布袋） 武人（毘沙門天）

（背面／北側）



毘沙門天に踏まれる邪鬼獅噛、唐子遊び、松竹梅、宝珠、米俵、福袋、鹿、亀、鶴、鳳凰

脇障子（西側／雷神）



脇障子（東側／風神）



（西側）

向背柱の頭貫の木鼻の獅子

（東側）



扉右／梅に鶯と竹



扉左／梅に鶯と向日葵